

首里杜地区整備基本計画検討委員会(第3回) 議事要旨

日時：2022年3月10日(木) 14:00~16:00

場所：那覇市ぶんかテンプス館 3階会議室

【首里杜地区整備基本計画(素案)第1章関連】

- アンケート結果が文章のみで記載されているが、付録扱いでも構わないので図表も入れてほしい。

【首里杜地区整備基本計画(素案)第2章関連】

- 記憶の”更新”ではなく、記憶の”積み重ね”という表現が適切である。
- 目指す姿について、来訪者が「受け継ぐ」という点が疑問。住民の主体性も伝わる表現がよい。
- 目指す姿について、集合的記憶は当事者だけが受け継ぐものではなく、また来訪者が関係人口になるという文脈であれば来訪者も受け継ぐという表現は前向きに解釈できる。
- 課題と解決策の文章の流れを、住民→観光客の順で統一したほうがよい。
- 渋滞に関しては、住民を居住者と通過交通する人に分けて考えたほうがよい。
- 将来イメージスケッチについて、Wi-Fiだけでなく多様な記号を使用したほうがよい。
- 将来イメージスケッチについて、部分的にでも赤瓦の家並みが連なる表現がほしい。

【首里杜地区整備基本計画(素案)第3章関連】

- 「コミュニティサイクル」は「シェアサイクル」が適切である。
- 「DXの活用」は「DXの推進」が適切である。

【首里杜地区整備基本計画(素案)第4章関連】

- 協議会参加事業者には、地域内事業者だけでなく、DXを推進する民間事業者や団体が参画できるような表現にしたほうがよい。
- 地域の協議会参加者が限定的な表現になっているので、もう少し幅のある表現がよい。
- 必要な取り組みの具体化の検討や見直しも協議会の役割として表現したほうがよい。

【その他】

- 交通問題の根本的な解決に向けて、現在記載されている取り組みだけではなく、次年度以降も最適化に向けた協議を進めることを位置づけてもらいたい。
- 観光交通問題に対する施策が少ないように見える。取り組み一覧のNo.25「パーク&ライドの推進(てだこ浦西駅、崎山P&R)」に「など」を追記し幅をもたせてはどうか。
- 歴史的風土保全地区が何を意図しているのか。識名の墓地群や、石嶺、末吉など、首里杜地区内ではないが首里にとって重要な資源が集積している場所もある。将来的にはそういうものも含めて景観を考えてほしい。

【参考資料・概要版について】

- 湧水に関するものが抽出されていないが、重要な取り組みであり、外してしまうのはいかなものか。
- 概要版の将来イメージのページとその他のページで紙面の情報量が違うので、資源分布図を載せるなど、レイアウト等を工夫してはどうか。

【次年度以降の取り組みについて】

- 協議会設置要綱等の作成においては、協議会が持つ、計画の追加・修正の権限がきちんと担保されるよう、留意してほしい。
- 協議会は受け身の組織ではなく、主体的に活動できるものとなるよう参加者などを設定してほしい。市民委員の募集も視野に入れてほしい。
- 那覇市には、まちづくり協働推進課など市内の連携をお願いしたい。
- シャトルバスの社会実験などは、コロナ禍の今だからこそできる実験である。
- 那覇市がすでに3D都市モデルを持っており、これをプラットフォームにしてデータを重ねることで、交通施策や維持管理効率化など様々な検討ができると思う。次年度以降検討してほしい。
- 協議会が法に基づくものなのか独自のものなのか体制についても協議会で継続して検討する。
- 本計画の実現に向けた有効なツールとして歴まち法に基づくまちづくり計画があり、そのような発展を期待する。
- 協議会の事務局本部を県に置く予定となっているが、歴まち法や歴史文化基本構想など、まちづくりの課題を解決するための各制度や事業は、市町村が主体となってとりまとめ実施することを前提に制度設計がされている。国の機関としては、那覇市に、協議会事務局へのより主体的な参加や、本計画を実現するための体制づくりなどを期待する。